

關 西 大 學

中國文學會紀要

第四十五號

令和六年三月

沈国威教授退休記念号

關西大學中國文學會

◆ 編集後記 ◆

沈国威先生との初対面は、わたしがまだ博士課程在籍中のことだったと記憶している◆沈先生のお名前は、日下恒夫先生や内田慶市先生から、その頃よく伺っていた。ちょうど、『日本国語大辞典』の改訂版の仕事をされていた時で、お忙しいなか関大図書館にいられていたおりに、お会いしたのだった。四月からの関大への赴任が決まり、新しいスタートの時期でもあったのだろう、はつらつとしたエネルギーに満ちておられた◆初対面の沈先生のお顔を思い出そうとしても、目に浮かぶのは今とほとんど同じお顔である。二十五年以上の年月が経ったが、なぜこんなにお変わりないのか、一月二十六日の最終講義を拝聴し、大いに納得した。今後の研究の構想を実現するために、先生は新しい大きなスタートを切られたばかりなのだ、あの頃と同じように◆何年か前に、わたしが最近年輪的に元氣が出ないという話をした際、「僕がその歳のころは、さあこれからもう一丁やっつてやるぞ、という心境だった」とおっしゃった。先生は何の気なしにおっしゃったのかもしれないが、励ましのお言葉だったと思う◆今号は、沈国威先生の退休記念号である。中国で活躍する教え子の皆さんからもたくさんのお投稿があり、大変充実した内容となった。沈先生の学恩の大きさをあらためて感じる◆沈先生、ありがとうございます。四月から寂しくなります。

(奥村)

令和六年三月十九日発行

關西大學

中國文學會紀要 第四十五號

郵便番号 五六四一八八〇

大阪府吹田市山手町三十三―三五関西大学文学部内

編集兼

発行人

關西大學中國文學會

(〇六)六三六八〇三六(直)

振込口座〇〇九三〇一三一四〇六六五番

代表者

吾妻重二

印刷所

京都市下京区松原通麩屋町東入石不動之町
六七七一―
株式会社 田中プリント